

ANNUAL REPORT 2022

2021.12 – 2022.12



Bridge for Children,
KGU





ごあいさつ



BFCをご支援くださる皆様へ

皆様のご理解とご支援に支えられ、
おかげさまでBridge for Children, KGU (BFC) は
結成12年目を迎えることができました。

そして、今年度は実施を見合わせていたプロジェクトや
新たな場所での活動も開始させていただき、
私たちBFCは更なる成長を遂げることができました。

これもひとえに皆様方のご支援とご協力のおかげです。
BFC一同に素晴らしい機会をくださった皆様に
深く御礼申し上げます。

今後も、BFCらしい活動が拡大できるよう精進してまいります。
来年度も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

Bridge for Children, KGU 一同

目次

1. Bridge for Children, KGU

2. 国際理解教育局

3. 海外支援局

4. 日本の子ども局

5. 財務局プロジェクト

6. 広報

7. 活動メンバー

8. 連絡先一覧

9. 最後に



Bridge for Children, KGU

2011年に、関西学院大学総合政策学部の学生により結成された学生国際協力団体です。For the Children's Smileを理念に掲げ、神戸三田キャンパスを拠点に、毎週金曜日にミーティングを行っています。

国際理解教育



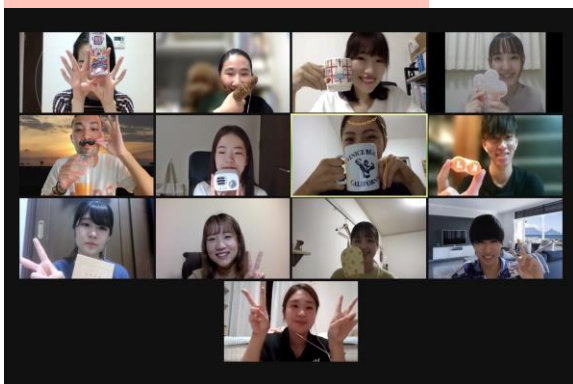
海外物資支援



日本の子ども支援



全体ミーティング





国際理解教育

国際理解教育の目的

国内の学生の皆さんに、私たちの経験談や世界の現状を伝えることで、一人でも多くの学生が世界に存在する課題に関心を持つきっかけを作るために行います。

また、自身の今後における視野と将来の選択肢を広げることを目的としています。

授業内容

各学校のご希望内容に沿って、授業内容を考えるため、各学校によって授業内容は異なります。

主に国際問題についてテーマを取り上げ、問題についてより深く考えてもらうためのワークショップやグループワークを行います。

ご協力いただいた皆様へ

本年度も多くの学校にご協力を賜り、3校に国際理解教育を実施させていただくことができました。

未だ見通しのきかない状況ではありますが、新型コロナウイルスへ万全の対策を講じた上で、各学校の方針に沿って実施を再開させていただけたことを大変嬉しく思っております。

改めまして実施校ならびに各校の関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。

来年度以降も団体内における研修や勉強会を通して、授業の質の向上に努めていく所存です。引き続き、よろしく願い申し上げます。

関西学院大学総合政策学部 チャペル・春学期(5月)

《目的》新入生に対してBFCの活動紹介、また活動を通じて学んだことや感じたことを伝えることでメンバーのアプトプットの機会を作るとともに、新メンバーの勧誘を行い学内認知度を高める。

《内容》

- ①自己紹介
- ②BFC活動紹介
- ③学園マルシェを通じて学んだこと
- ④国際理解教育を通じて得た新たな視点
- ⑤まとめ



大阪府立枚方高等学校(8月)

《 目的 》大学生生活や大学での英語学習、英語を勉強する意味について、実体験を交えながら伝えることで、英語のモチベーションを高め、将来への目標設定をしながら学習に取り組んでもらうため

《 内容 》

- ①団体紹介
- ②アイスブレイク
- ③大学の紹介
- ④大学の英語学習と英語学習の意義
- ⑤まとめ・質疑応答



《 生徒の皆さんのコメント 》

話すスピードや内容など、すごく良かったので話がすんなり頭に入ってきました。ありがとうございました。

兵庫県立明石城西高等学校(11月)

《 目的 》メンバーの実体験を基にケニアの児童労働について伝えることで子ども達が置かれている現状を知り、小さくて大きい世界の問題に目を向けるきっかけを作る

《 内容 》

- ①BFC紹介
- ②日本の児童労働
- ③ケニアの児童労働
- ④海外プロジェクト紹介
- ⑤まとめ
- ⑥質疑応答・アンケート



《 生徒の皆さんのコメント 》

普段気にしないケニアの児童労働について詳しく知ることが出来て良かった。児童労働がなくなってもみんなが生活に困らない社会になれば、より良い社会になると思いました。

関西学院大学総合政策学部 チャペル・秋学期(12月)

《 目的 》 1年生に対して、春学期のチャペルで紹介出来なかったBFCの活動や、その活動を通して学んだこと・感じたことを伝えることでメンバーのアウトプットの機会を作るとともに、新メンバーの勧誘を行いBFCの学内認知度を高める。

《 内容 》

- ①BFC活動紹介
- ②海外支援プロジェクト
- ③こどもの里でのボランティア活動
- ④まとめ





海外支援プロジェクト

ご協力いただいた皆様へ

本年度多くの学校にご協力を賜り、昨年度より計画しておりました、新しい海外支援プロジェクトを始めることができました。

新型コロナウイルスの影響が未だ大きく大変な状況が続いていたにもかかわらず、衣類回収への温かいご協力を賜りましたこと心よりお礼申し上げます。

回収させていただいた衣類は、私どもが責任を持ってフィリピンの孤児院に届けることをお約束いたします。

また、本プロジェクトを「顔の見える継続的な支援」として実現させるため、来年度も尽力いたします。

何かとご支援を賜りますが、引継ぎどうぞよろしくお願いいたします。

本プロジェクトについて

本プロジェクトは、ストリートチルドレン、孤児、ホームレス、移民
貧困や家庭事情などの行き場を失った子ども達が暮らす
フィリピンの孤児院「サンマーチン」に衣類を継続的に送り届ける
プロジェクトです。

物資支援は彼らの要望に応えられるよう、メールでのニーズ確認
より始まりました。以前は支援物資として靴を送り届けていた
弊団体の海外支援プロジェクトですが、今回子どもたちが着る
衣類が必要だと分かり、衣類回収プロジェクトとして再構築いたし
ました。

平素より国際理解教育などでお世話になっている学校の皆様を
はじめとして、お声がけと回収を行わせていただき、皆様のお力
添えのおかげで、本年度多くの衣類が集まりました。

以下に数を掲載させていただきます。

回収枚数

Tシャツ	67枚
スカート	4枚
ズボン	12枚
ワンピース	4枚





日本の子ども支援

背景・目的

日本には相対的貧困(子どもの貧困)が存在し、厚生労働省の調査によると、2018年の18歳未満の子どもの貧困率は13.5%で約7人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれています。この現状に対し、学生という立場から子どもたち一人ひとりに寄り添い、本当に必要とされている支援を行うことを目的に活動しています。

参考資料：厚生労働省 (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/dl/03.pdf>)

活動内容

・外部団体の活動参加

日本の子どもたちへの活動を行なっている団体へ訪問し、実際に活動に参加したり、スタッフの方々にお話を伺いました。また、BFCが今後継続的に活動を行なっていくための関係構築にも取り組んでいます。

・活動させていただいた外部団体

認定NPO法人こどもの里

・勉強会(子どもに関する社会問題)、ビジネスメール研修

活動意義

日本には約7人に1人の子ども(18歳未満の子ども)が貧困状態にあると言われていています。こういった子どもたちは、開発途上国の子どものように毎日の衣食住に事欠く絶対的貧困とは異なりますが、経済的困窮を背景に教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立し、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にあります。

BFCは、フィリピンの貧困地域で暮らす子どもたちに支援したいという思いから設立されました。しかし活動していく中で、開発途上国だけでなく先進国である日本でも貧困状態にある子どもが多くいることを知りました。海外だけでなく身近にある日本の問題にも目を向けるべきではないかというメンバーの声から、日本の子ども支援が始まりました。コロナウイルスの蔓延により、人と人の深い繋がりが減って孤立する子どもが急増しています。そういった問題にも、年齢が近く、同じ状況に置かれた大学生だからこそ少しでも子どもたちの心に寄り添えることがあるのではないかと考えております。

認定NPO法人こどもの里(大阪・釜ヶ崎)

認定NPO法人こどもの里は「子どもの最善の利益を考えること」「子どもの自尊心を守り育てること」を信念として、子どもたちの遊びと学び、生活の場を作ることで子ども自身の成長を支援する活動をされています。

ビジネスメール研修

目的

- ①ビジネスメールの基本型を思い出す
- ②メール作成時の疑問を解消する
- ③伝わりやすく丁寧なメールを作成する

ゴール

国際理解教育などの活動において、外部団体とメールでのやり取りをすることがある。その際にすぐに活かすことのできる知識とマナーを身につけるため、研修を実施した。

内容

- ①メールの基本的な形の確認
- ②事前に募集したメールに関わる疑問への回答
- ③間違いやすい敬語と言葉
- ④メールを添削するときのポイント確認
- ⑤実践問題(依頼とお詫びメールの作成とペアチェック)

子どもに関する社会問題勉強会(3月)

目的

国内外の子どもに関する社会問題について学び、さまざまな状況に置かれている子どもがいることを知る。

内容

- ①子どものための正しい選択とは？-養子縁組・里親制度から考える-
- ②浮きこぼれの子どもたち
- ③ウクライナ VS ロシア

子ども局メンバーが注目する子どもに関する社会問題について各自プレゼン。その問題の詳細や現状、ニュースについて話した。また、その問題に対する考えや解決策を話し合うグループトークを実施。その後、各グループで考えたことを全体で共有。

ご協力いただいた皆様へ

本年度は新型コロナウイルス感染症の制限の緩和により、貴団体の活動への参加を再開することができ、とても嬉しく存じます。メンバーの都合上、毎月の参加ができず、大変申し訳なく感じております。そんな中でも、いつもご丁寧にご連絡くださいましたこと厚く御礼申し上げます。

今年度も、貴団体の皆様や子どもたちと実際に関わる中で良好な関係性の構築を目標としていました。前年度までは、活動先に伺うことができず、当初の目標を達成することができませんでした。今年度は活動への参加を再開することができ、目標達成に近づくことができました。来年度以降も、継続的に活動に参加させていただきたく存じます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

財務局プロジェクト

目的

国内外の子ども達への支援活動及び、
国際理解教育活動などへの
資金を有意義に使用できるよう、
2022年度は以下の資金プロジェクトを
実施致しました。

以下は、諸事情により中止になったものも含めます。

概要

1. 新月祭
2. 学園まほろばマルシェ
3. 財務収支

新月祭

今年度の新月祭は2022年10月22日、23日に行われました。新月祭に模擬店を出店することを目指して、海外支援プロジェクトの資金調達を目的にすると同時に、新月祭に向けてプロジェクトチームを立ち上げ、準備していました。

しかし、目的を達成することが困難であるという理由から今年度は参加を見送ることとなりました。

学園まほろばマルシェ

私達は3月27日、5月29日、9月25日、11月27日に、学園まほろばマルシェに参加しました。

学園まほろばマルシェとは、学園の人々の交流を深めるために毎月第4日曜日に、まほろばブレッツアで開催されるイベントです。

BFCは、お菓子釣りを出店させていただきました。

当日は多くのお客様に来ていただき、お菓子釣りを楽しんでいただくと共に地域の方々との関わりのなかで、BFCの活動について知っていただける機会となりました。

多方面からのご協力のもと、無事出店を成功させることができたこと心より感謝申し上げます。



2022年度 収支報告

2021年12月～2022年12月

前年度繰越金：282,946(円)

収入	(円)
会費 2022秋	7,000
学園まほろばマルシェ	33,935
雑費	450
合計	41,385

支出	(円)
ワンドライブ管理費	2,912
年賀状送付	2,520
暑中見舞い送付	1,260
交通費	14,353
衣類回収プロジェクト	4,250
雑費	9,289
合計	34,584

- 次年度へ289,747円繰り越しとします。

(前年度繰越金 + 今年度収入合計 - 今年度支出合計 = 289,747円)

Bridge for Children, KGU

[About BFC](#)[Project](#)[Blog](#)[Column](#)[Member](#)

広報

今年度の広報は、昨年度に引き続き情報発信を怠らず外部との信頼関係の構築に奮励しました。BFCについて知ってもらうだけではなく、国内外問わず我々が日々抱えている社会問題に対して関心を持ってもらえるように働きかけるなどの広報活動を行いました。

活動内容

- ・ ホームページ作成
- ・ Twitterでの発信
- ・ Instagramでの発信
- ・ コラムの発信

ホームページ

ホームページは3年前に作成が開始されました。
以前行ったクラウドファンディングで、団体として活動を行う
為には外部との信頼関係の構築とその継続が必要不可欠だと実
感しました。

少しでも信頼していただける団体を目指して、団体内での活動
を外部から見えやすくすることを意識し、メンバーが興味関心
を持っている社会問題や経験を記したコラムの掲載を行いました。

URL: <https://bfcsmile.jimdofree.com>

Colum

世界で起こっている問題や、それぞれのメンバーが普段何気なく考えていることを書いています。



「つくる責任、使う責任」

2022.9.25

先日、ゼミの研修でJICA関西を訪問した際、SDGsについて知ってもらうための広報展示室の展示でSDGsのある目標が最低評価になったことを知りました。



「外国にルーツを持つ子どもの困難」

2022.10.28

日本は単一民族からなる社会と思われがちです。皆さんも普段の生活で外国人と接することが少ないことから、このように思ったこともあるかもしれません。しかし、そうではありません。



「日常生活に潜むジェンダーバイアス」

2022.11.25

ジェンダーバイアスとは、「男らしさ」や「女らしさ」などの男女の役割に関する固定的な観念や、それに基づく差別・偏見・行動などのことです。

MORE

Member

1年生ー
2年生ー2人
3年生ー7人
4年生ー3人
(2022年4月1日)

4年生



みゆ
(Miyu)
国際理解教育局



あおい
(Aoi)
財務局



田辺 大空
(Tanabe Ohzora)
日本の子ども局

総合政策学部

Twitter

Twitterでは、今年度も引き続き毎週金曜日に行われるミーティングの報告と、国際理解教育や学園マルシェでの活動報告、新入生向けのコンテンツの投稿を行いました。

目的	<p>【ミーティング報告】 日ごろの活動内容をわかりやすく示し、BFCに親しみを持ってもらうため。</p> <p>【活動報告】 BFCが普段どのような活動をしているのかを知ってもらうため。</p> <p>【新入生向けコンテンツ】 新入生が不安を抱かないように努めるとともに、気軽に相談できる環境を提供するため。</p>
内容	<p>【ミーティング報告】 主にその日あった出来事を写真付きで投稿</p> <p>【活動報告】 国際理解教育の様子、学園マルシェでの様子を写真付きで投稿</p> <p>【新入生向けコンテンツ】 春学期 ① メンバーの履修例紹介 ② 科目紹介 ③ チャペルアワーでの登壇</p> <p>秋学期 ① メンバーの履修例紹介 ② 科目紹介 ③ チャペルアワーでの登壇</p>
結果	<p>いいねの数は全体的に少ないが多かったが、エンゲージメントに関しては、ツイートからBFCのアカウントのプロフィールを見てくれる人を毎回一定数得ることができていた。</p>

Instagram

概要：BFCの活動についてより多くの人に知ってもらうために、外部に向けたコンテンツを発信しました。

- 内容： 1, ストーリーによるミーティング報告
2, イベント参加の告知と報告
3, 関西学院大学内の他団体との連絡

1, ストーリー、リールによるミーティング報告

目的	BFCの雰囲気や活動内容を知ってもらうため。
内容	毎週行われるミーティングの写真やアウトライン、内容をInstagramのストーリーで投稿しました。 (ストーリー：全12回)
結果	ストーリーでは多少ばらつきがあったものの、90~150人に閲覧してもらうことができました。

2, イベント参加の告知と報告

目的	BFCの活動内容を知ってもらうため。
内容	交流イベントや国際理解教育へ参加し、その内容や感想などをストーリーなどで投稿しました。
結果	ストーリーは150人以上に閲覧してもらうことができました。

Instagram

3, 関西学院大学内の他団体との連絡

目的	他団体との交流により。イベントの情報共有や他局の活動と連動させるため。
内容	InstagramのDM（ダイレクトメール）を用いて、イベント情報をBFC内に紹介しました。
結果	8団体から連絡をいただき、イベントの共有を行いました。

コラムの発信

例年通り、メンバーが関心をもっていることについて
コラム形式でFacebook（9月よりHPに移行）上に掲載しました。
基本的には隔週金曜日にBFCのFacebook（HP）を通して発信
しました。

コラムの発信を通して、学内外の方々にBFCメンバーの
持つ考えや、様々な角度から社会問題について伝える事が
できました。

以下、今年度投稿したコラムの紹介です。

林瑞歩	「小さい子どものインターネット利用」
赤浦真穂	「保護犬の殺処分以外の選択肢」
長濱光葉	「防災グッズのお話」
坂本葵	「エッセイと想像力」
鵜野芽依	「私たちにできるエコ活動」
田辺大空	「私たちにできる事」
赤浦真穂	「事実と真実を見極めるということ」
近藤陸人	「子どもとの接し方」
山蔭もも	「「伝える」ということ」
増田萌花	「匿名の攻撃」
清川いと	「大人の定義とは」
山縣早樹	「つくる責任、使う責任」
林瑞歩	「外国にルーツを持つ子どもの困難」
鵜野芽依	「日常生活に潜むジェンダーバイアス」
赤浦真穂	「物事を始めるのに早すぎることはない」
近藤陸人	「SDGsウォッシュ」

URL:

[https://ja-jp.facebook.com/pages/category/
Organization/Bridge-for-ChildrenKGU-305080959623563/](https://ja-jp.facebook.com/pages/category/Organization/Bridge-for-ChildrenKGU-305080959623563/)

[Colum - 関西学院大学Bridge for Children, KGUホームページ
\(jimdo.free.com\)](http://jimdo.free.com)



2022年度メンバー

代表: 鵜野芽依

3年

鵜野芽依
清川糸
近藤陸人
林瑞歩
山蔭もも
山縣早樹

4年

木村美憂
坂本葵
田辺大空

2年

赤浦真穂
増田萌花



連絡先

▼ **G-mail:** bridge.for.children@gmail.com

* 国際理解教育の依頼やその他活動についてのお問い合わせは、こちらのメールアドレスにお願い致します。

▼ SNS

Facebook: Bridge for Childen, KGU

Twitter: bfc_kgu

Instagram: bfc_kgu

* BFCの活動情報を更新中

▼ **HP:** <https://bfcsmile.jimdofree.com/>

* BFCの活動紹介やメンバーのコラム掲載



HP QRコード



最後に



2022年度も皆様のご協力により、
私たちBFCは引き続き活動を行うことができました。
改めまして心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策のための制限が
少しずつではありますが緩和され始め、
今年度は私たちにとって
「再出発」の節目となる一年でありました。

このように、私たちがこれまで見合わせていた活動を
再開することができたのは、お力になれない間も
変わらず連絡を続けていただいた皆様、
活動の機会を提供してくださった皆様、
そして新たに出会うことができた皆様のおかげです。

私たちBFCは今後も、
”For the Children’s Smile” ～子どもたちの笑顔のために～
を理念に、子どもたちと夢や希望、
そして明るい未来を繋ぐ架け橋であり続けます。

新年も、皆様にとって素晴らしい年で
ありますよう祈念しております。
最後に今一度、皆様方に更なる協力をお願いいたしまして、
年次報告とさせていただきます。

来年もどうぞ、宜しく願い申し上げます。

2022年度代表 鵜野芽依



**Bridge for Children,
KGU**